

中部地区医師会 会長 今井千春 先生



山川先生＞ 今井先生、中部地区医師会会長就任おめでとうございます。

今井先生＞ ありがとうございます。

山川先生＞ 先生は開業される以前にも医師会には加入されていたと思いますが、開業後は勤務医時代とは異なる形で医師会活動に関わってこられたのではないかと思います。これまでどのような活動をされてきたのか、その後理事に就任され、最終的に会長を任されるに至った経緯をお聞かせいただけますでしょうか。

今井先生＞ はい、わかりました。実は、琉球大学以外の勤務先はすべて、県医師会長が経営する病院に勤めていました。比嘉先生、大浜先生、宮城先生、安里先生の病院で医師として働いており、医師として駆け出しの頃から県医

師会の会長は私にとって非常に身近な存在でした。そういった経緯から、勤務医時代を通じて県医師会には馴染み深い関わりがありました。

具体的な活動内容としては、大浜第一病院に勤務していた際、平成 20 年に那覇市医師会の糖尿病治療検討委員会に参加しました。当時、那覇市医師会の担当理事は田名先生で、田名先生と共に仕事をさせていただきました。また、那覇市医師会では、大浜第一病院が安里班に属しており、交代で班会議に出席していました。その中でも、忘年会で近隣の開業医の先生方とフグ料理を囲んで歓談したことは、非常に楽しい思い出となっています。

そして、平成 22 年に中城村で開業しましたが、実はその開業の 1 年前にハートライフ病院に勤務していました。その時のハートライフ病院の理事長である安里先生は、当時、中部地区医師会の会長をされていました。

そのご縁もあってか、開業から間もない平成24年には中部地区医師会の理事に招かれることとなりました。

そのようなご縁とご恩があり、私は安里先生が居るハートライフ病院には、足を向けて寝ることが出来ません。理事に就任した際、ちょうど中部地区医師会の会長が安里先生から中田先生にバトンタッチされた時期でした。中田先生からは、12年間を通じて多くのことを学ばせていただきました。一言で言えば、中田先生は物事を見渡す視野が非常に広い方で、私よりも常に一段高い視点から物事を捉えておられました。その判断力には、いつも感心していました。

また、中田先生は会長を退任される数年前から、後任の会長の負担を軽減するために、中部地区医師会の組織改革に心血を注いでおられました。

そして今回、縁あって会長に就任することとなり、色々な経緯がありましたが、重責に感じることも多い中、周囲の手厚いサポートを受けながら、現在まで何とか頑張っているところです。

これが今までの経緯です。

山川先生> ありがとうございます。それはもう、これまでもいろいろな出会いやご縁があって現在に至ったのですね。では現在の中部地区医師会全体を見渡して、頑張っている点についてのポジティブな面と、今後改善が必要だと感じる部分についてお話いただけますでしょうか。

今井先生> まず、中部地区医師会全体を通して、頑張っているポジティブな面についてお話しします。

中部地区医師会のポジティブな面は、カバーする地域が非常に広く、会員数が多いことです。

例えば、老人保健対策事業では、管内の9市町村に加え、北部の宜野座、金武、恩納村も含めた計12市町村からの委託を受け、平成29年から在宅医療・介護連携推進事業を行っています。



また、検診センターで実施している個別がん検診は、管内9市町村と北部7市町村で行っています。

関係する市町村が多いことは、反面、課題でもあります。例えば、学校医の配置や予防接種、特定健診事業など、行政からの依頼に対して、医師会事務員が少ない中で非常に頑張っていますが、業務量が多く、対応が大変です。

今後、さらに頑張っていきたい点としては、これは私の抱負でもあります。今後、中部圏域では入院が必要となる患者数が増加すると予想されます。急性期病院から地域包括ケア病床を持つ病院や介護リハビリテーション病院、在宅医療との連携がスムーズに行えるよう、潤滑油としての役割を果たしていきたいと思っています。

さらに、もう1つの目標として、地区医師会内の会員同士のコミュニケーションを活性化させ、会員の皆さんが楽しく気軽に参加できる会を作りたいと考えています。

山川先生> ありがとうございます。非常に広域な領域で多面的な事業を行っているのですが、中部地区医師会は、学校保健事業や予防接種事業に加えて、成人病検診センター、ぐしかわ看護専門学校、訪問看護ステーションの運営など、実に幅広い事業を展開されています。地域住民の医療ニーズに応えるべく尽力されていますが、今後特に力を入れて取り組まれる事業があればお聞かせいただけますでしょうか。

今井先生> ご質問ありがとうございます。

中部地区医師会は、九州地区の中でも医師会立共同利用施設が充実していると自負しています。

職員数は総勢 247 名です。これまで、成人病検診センターは多くの黒字を生み出し、医師会の運営安定に多大な貢献をしてきました。また、ぐしかわ看護専門学校は創設以来、卒業生が 1,100 名を超え、昨年度の県内就職率は 68% でした。

現在の医療情勢は厳しく、人材不足や物価上昇など、少しでも経営努力が不足すると赤字化してしまいます。検診センターでは、新システムの導入により、さらなるサービス向上を図っています。ぐしかわ看護専門学校については、今後の運営方法について、現在委員会を立ち上げて検討しているところです。

山川先生> ありがとうございます。中部地区医師会ではそんなに多くの職員の皆さんが働いてられるのですね。

今井先生> そうなんですよ。調べてもらったんですけど、やっぱり検診センターがかなり多いんですね。

山川先生> 中部地区医師会の会員数は 641 名、これは令和 6 年 10 月 15 日現在の数字ですが、県内の地区医師会の中で最も大きな規模を誇ります。このように大規模な医師会を運営する中で、舵取り役としてどの様なご苦労や留意点をお持ちでしょうか。

今井先生> 現在、おっしゃる通り、総会員数は 641 名、そのうち A 会員は 230 名となっています。

一般的に、会員数が 150 名を超える規模になると、会員が顔見知りになることは難しい状況とされています。

今回のコロナ禍では、会合を開けない期間が長く続き、その間に、近隣で開業した先生が何



をされているのかも分からないという状況が生まれました。

そのような中で、まず出来る対策として取り組んだのは班会議の活性化です。中部地区医師会には 6 つの班があり、それぞれの班の A 会員は大体 19 人から 52 人の規模で、比較的顔見知りになりやすい規模となっています。

6 つの班には、それぞれ特色がありますが、中でもコロナ明けからいち早く非常に活発に活動しているのは、山川先生が所属されている宜野湾班です。

このように班会議を活性化させ、会員の皆さんが医師会活動に積極的に参加できるよう、引き続き頑張っていきたいと思います。

山川先生> ありがとうございます。それでは、沖縄県医師会に対して、先生からのご意見やご要望がございましたら、お願いいたします。

今井先生> はい。県医師会長をはじめ理事の皆様方には、日常診療が忙しい中、県外での会議に数多く出席され、誠に頭が下がる思いです。

地区医師会長の立場では、顔を合わせて得られる情報は県内のものに限られます。日医からの情報は主に印刷物が中心となり、なかなか微妙なニュアンスを掴むことができません。

県医師会への要望としては、ぜひ、日本医師会や政府、国の主要機関から得られた一次情報を、地区医師会まで届けていただけるとありがたいと思います。

山川先生> では最後に、先生の日頃の健康法や楽しみにされていること、趣味などがあればお聞かせください。また、座右の銘についても伺いできればと思います。

今井先生> 日頃の健康法は、食事を妻の言う通りにすることです。

私は第三内科の出身と胸を張って言えるくらい、うちは減塩ファミリーです。

来客があると、うちの料理を食べてあまりの薄味に驚いてしまうことがあります。食事はすべて妻に任せているというのが、私の健康の秘訣です。

もう1つの健康の秘訣は、懇親会でビールを片手に皆さんと歓談することが大好きなのですが、つい話に夢中になって食事を取らずに帰ってしまうことが何度ありました。そのたびに、妻に厳しく注意されまして、今では必ず何かを食べるようにしています。これが私の健康法ですね。

次に楽しみのことですが、娘が拾ってきた野良猫の「ニャン」を飼っており、そのニャンと遊ぶのが非常に楽しみです。うちのニャンは、「ついてきなさい」と言わんばかりに、トコトコとどこかに連れていこうとします。どこに行くのかと思ったら、ベランダに行き座り、その後は何かをするでもなく、お尻を向けてただ座っているんですね。

そのニャンを見ながら、外の木の葉が風で揺れるのを見るのが、非常に気分転換になり、これはいいなと思っています。

昨年の随筆にも書きましたが、私はオンラインゲームが大好きです。ただ最近、長時間マウスを握って操作を続けると指関節が痛くなり、年を感じるようになりました。それがちょっと寂しいですね。

最後に、座右の銘ですが、私の座右の銘は「川の流れに身をまかせ」です。

これは、美空ひばりさんとテレサ・テンさんの曲を足して2で割ったような感じの言葉ですが、この言葉の出典、一橋ビジネススクールの



PROFILE

学歴

平成 元 年 3 月 琉球大学 医学部 医学科 卒業
平成 8 年 3 月 琉球大学 大学院 医学研究科 修了

職歴

平成 元 年 6 月 研修医
平成 3 年 4 月 豊見城中央病院 入職
平成 4 年 3 月 豊見城中央病院 退職
平成 8 年 7 月 琉球大学 医学部 第三内科助手
平成 9 年 10 月 大浜第一病院 入職(循環器部長)
平成 11 年 8 月 カリフォルニア大学 サンディエゴ校 薬理学 研究員
平成 14 年 6 月 沖縄第一病院 入職
平成 15 年 4 月 沖縄第一病院 退職
平成 15 年 5 月 大浜第一病院 入職(内科部長)
平成 21 年 6 月 大浜第一病院 退職
平成 21 年 7 月 ハートライフ病院 入職
平成 22 年 8 月 ハートライフ病院 退職
平成 22 年 9 月 今井内科医院 開院

楠木建教授が書いた「全ては好き嫌いから始まる」という本です。

楠木先生は、私と同じ昭和 39 年生まれで、残念ながら面識は有りませんが、この本には非常に腑に落ちる内容が多く、共感するところがたくさんあります。おすすめの本ですので、もしご興味があれば、皆さんもぜひ一度ご一読ください。

山川先生> 本日はお忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございました。

インタビュアー：広報委員 山川 研